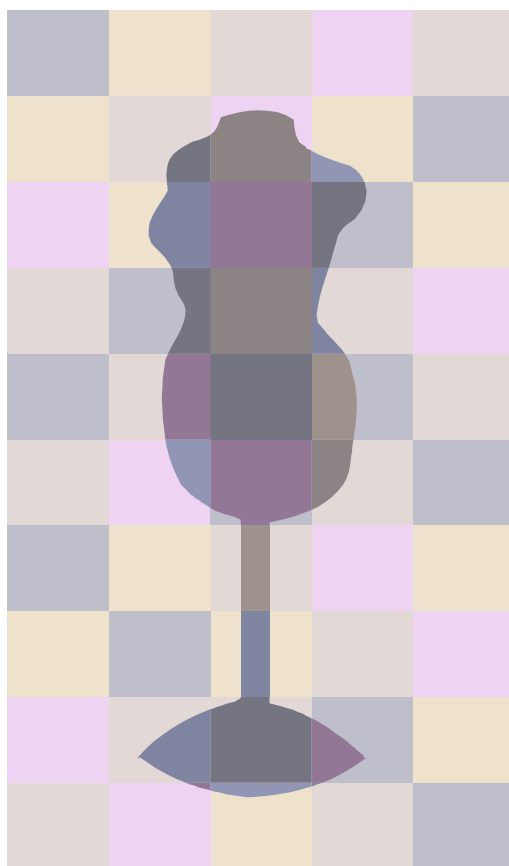


挿絵画家

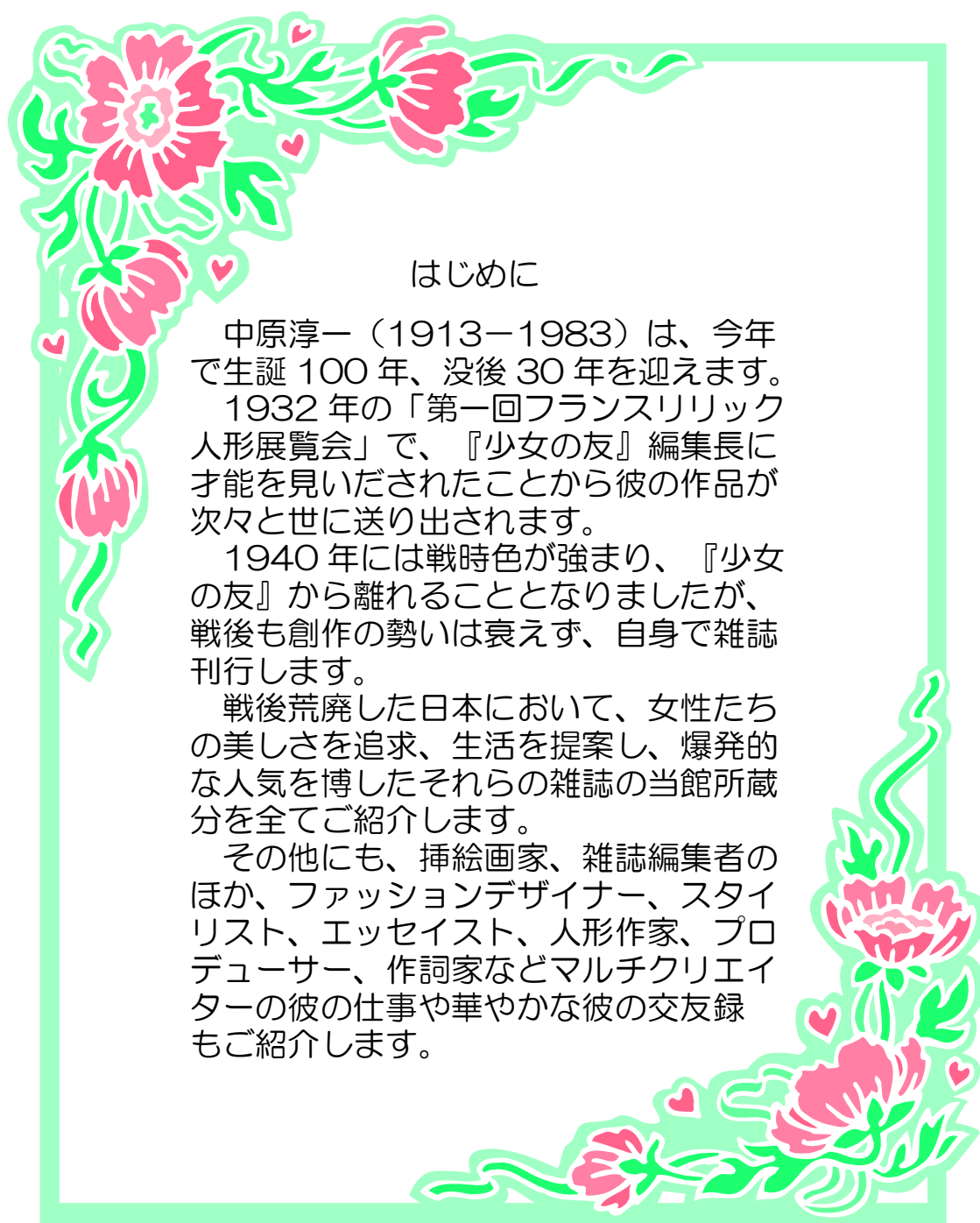
中原淳一～生誕100年～



会期：平成25年8月31日（土）

～11月28日（木）

会場：北海道立図書館エントランスコーナー



はじめに

中原淳一（1913－1983）は、今年で生誕 100 年、没後 30 年を迎えます。

1932 年の「第一回フランスリリック人形展覧会」で、『少女の友』編集長に才能を見いだされたことから彼の作品が次々と世に送り出されます。

1940 年には戦時色が強まり、『少女の友』から離れることとなりましたが、戦後も創作の勢いは衰えず、自身で雑誌刊行します。

戦後荒廃した日本において、女性たちの美しさを追求、生活を提案し、爆発的な人気を博したそれらの雑誌の当館所蔵分を全てご紹介します。

その他にも、挿絵画家、雑誌編集者のほか、ファッションデザイナー、スタイリスト、エッセイスト、人形作家、プロデューサー、作詞家などマルチクリエイターの彼の仕事や華やかな彼の交友録もご紹介します。

<目次>

中原淳一年譜	・・・1
1. 挿絵画家デビューから戦後雑誌『それいゆ』誕生まで	・・・3
2. 次々と創刊される少女雑誌『ひまわり』『ジュニアそれいゆ』	・・・4
3. マルチクリエイター中原淳一の仕事	・・・5
4. 中原淳一の交友録～影響を受けた人たち～	・・・6

※エントランスコーナー展示関連資料（一般閲覧室展示）

中原淳一年譜

西暦（年号）	年齢	経歴
1913（大正2）年	0歳	香川県大川郡白鳥町で、父・郁朗、母・シウの四男として生まれる。
1915（大正4）年	2歳	小学校教員だった父親は親戚が開設した小売店を任され、一家で徳島県徳島市に転居。
1924（大正13）年	11歳	1920年に父没。母とともに広島県広島市に転居、広島女学院附属小学校に転入。この頃ピアノを身につけている。生涯にわたり交流があったという女優杉村春子は同校に音楽の代用教員として勤務していた。
1927（昭和2）年	14歳	建築士だった兄の勧めで工業学校に入学。美術を学びたい気持ちが募り中退。
1928（昭和3）年	15歳	日本美術学校絵画科に入学。本格的に西洋絵画を学ぶ。竹久夢二の影響を強く受けていく。
1930（昭和5）年	17歳	自分で仕立てて着る淳一のセンスに高級洋装店デザイナーとして抜擢される。
1932（昭和7）年	19歳	3月、銀座松屋で人形展『中原淳一・第一回フランス・リリック人形展覧会』を開催。雑誌『少女の友』の編集者の目にとまり、専属画家として表紙、挿絵を手がけるようになる。日本美術学校は、仕事に追われ中退。
1935（昭和10）年	22歳	「少女の友」一月号の表紙絵を初めて描き、その後六年間担当。戦争が始まると、優美でハイカラ、かつ目が大きく西洋的な淳一の絵は軍部の圧力の対象となり、1940年（昭和15年）6月号で最後とせざるをえなくなった。当時の婦人雑誌の最高峰だった「主婦の友」にも挿絵を描いている。

1939（昭和14）年	26歳	千代田区麹町に自身のグッズを扱う雑貨店「ヒマワリ」を開店。 『きものノ絵本』を通信販売で発行。 宝塚歌劇団元男役トップスターの葦原邦子と結婚。のち二男二女に恵まれる。
1945（昭和20）年	32歳	3月招集され横須賀海兵団に入隊。8月に復員。
1946（昭和21）年	33歳	神保町で雑貨店「ヒマワリ」を再開。 雑誌『ソレイユ』（フランス語で太陽、ひまわり。後のそれいゆ）を創刊する（～1960年7月号63号）。 「ヒマワリ社」（後の「ひまわり社」）を設立。
1947（昭和22）年	34歳	雑誌『ひまわり』を創刊（～1952年12月号6巻12号）。
1948（昭和23）年	35歳	神田神保町にひまわり社の新社屋を完成。9月、「ひまわり音楽と舞踏のつどい」を開催、以後毎年行われる。
1950（昭和25）年	37歳	ミュージカル「ファニー」をピカデリー劇場で上演。演出、衣装、舞台装置を担当。初めて上演された本格的ミュージカルだった。
1951（昭和26）年	38歳	4月、渡仏。パリに滞在。
1952（昭和27）年	39歳	6月、帰国。11月、東京で帰朝ファッションショー開催。「ひまわり」を12月号にて廃刊。
1954（昭和28）年	41歳	「ジュニアそれいゆ」創刊。以後隔月で発行。（～1960年10月号34号）。
1958（昭和33）年	45歳	7月に心臓発作のため入院。12月、退院。
1959（昭和34）年	46歳	7月に脳溢血のため入院。10月、退院。
1960（昭和35）年	47歳	心臓発作のため入院。『それいゆ』『ジュニアそれいゆ』は廃刊となる。
1961（昭和36）年	48歳	千葉県館山市にて療養生活となる。
1964（昭和39）年	51歳	渡仏し半年後に帰国。徐々に仕事を再開する。

1970（昭和45）年	57歳	雑誌『女の部屋』創刊するも、体調悪化のため5号で廃刊となる。
1972（昭和47）年	59歳	脳血栓で倒れ、館山市の高英男の別荘にて療養生活を送る。
1979（昭和54）年	66歳	脳血栓と心臓発作のため入退院を繰り返す。
1983（昭和58）年	70歳	4月19日、永眠。

展示ケース1

「挿絵画家デビューから戦後雑誌『それいゆ』誕生まで」

- ①『少女の友 創刊100周年記念号』（実業之日本社 2009）
- ②『少女の友展 昭和初期の少女雑誌』（弥生美術館 1999）
p.26 中原淳一の降板 「中原淳一降板を告げる文」内山基／文
- ③雑誌『別冊太陽 子どもの昭和史 おまけとふろくの大図鑑』（平凡社 1999.2.20 発行） p.144～145 「中原淳一のふろく」
- ④雑誌『それいゆ』（ひまわり社）1946（昭和21）年女性雑誌創刊。
「新しい表現と、高い知性を求めて、太陽に向かって咲くーソレイユ」
所蔵：No.11～21、25、31、33～39、41、45～46、
49～58、60～62、臨時増刊（1951.7.14、1952.1.20、
1952.3.26、1955.7.10、1956.11.1 発行）
- ⑤『それいゆ』No.29・31・33・36・40・48・別冊
（国書刊行会 2000）
- ⑥『中原淳一きもの読本』（平凡社 2005）
- ⑦『中原淳一の「女学生服装帖」』（実業之日本社 2010）
- ⑧『愉しく新しく』（ひまわり社 1954）
「つけまつげをつける」



展示ケース2

「次々と創刊される少女雑誌『ひまわり』・『ジュニアそれいゆ』 ～ファッション・ライフスタイルの提案～」

- ①『ひまわり』（ヒマワリ社）1947（昭和22）年少女雑誌創刊。
所蔵：3巻9・11号、4巻2～3・10～11号、5巻2・6～9号、6巻2・8・12号 付録：「淳一花のしおり」「淳一絵だより」ほか
- ②『ジュニアそれいゆ』（ひまわり社）1954（昭和28）年創刊。
キャッチフレーズ「十代のひとの美しい心と暮しを育てる」。
所蔵：1954.7、1955早春・初夏・夏号、増刊（1955.8.10発行）、
No.6～11、13、15～18、21～23、26、28～29、31～34、
36～38 29号より中原淳一に師事していた「内藤ルネ」の表紙となる。
- ③『はたらくひとのスタイルブック』（ひまわり社 1954）
- ④『きものの絵本』（ひまわり社 1953）【大】250円 【小】150円
- ⑤『子供のきもの』（ひまわり社 1951）
- ⑥『子供のきもの 別冊 作り方集』（ひまわり社 1954）
- ⑦『冬のスタイルブック』（ひまわり社 1953）
- ⑧『ワンピースのスタイルブック』（ひまわり社 1956）
- ⑨『ワンピース集』（ひまわり社 1954）
- ⑩雑誌『MOE』25巻3号（白泉社 2003.3.1発行）
p.76～77 中原淳一的「美しい少女生活」－「幸せ」は自分でつくるもの－
- ⑪雑誌『装苑』8巻9号（文化服装学院 1953.9.1発行）
p.102～103「服装における五つの問題についての五人の意見」
- ⑫『趣味の手帖 スターとともに』（ひまわり社 1954）
p.120～121「スターの休日5 雪村いずみさん」
多くの芸能人が彼のデザインした服を着ました。
- ⑬雑誌『婦人倶楽部 可愛い子供服〈中原淳一デザイン集〉』
増刊43巻12号（講談社 1962.10.15発行）



展示ケース 3

「マルチクリエイター中原淳一の仕事」

≪雑誌編集者として≫

①雑誌『女の部屋』1970年創刊。（中原淳一プロダクション）

所蔵：1、4、5号

中原淳一は度重なる病で雑誌廃刊に追い込まれていたが、雑誌編集への情熱は忘れていなかった。『女の部屋』を創刊。しかし、5号が発行された後、再び倒れ、これが最後の手がけた雑誌となった。

②雑誌『サンデー毎日』49巻23号（毎日新聞社 1970.5.10発行）

p.35 “闘病十年” で得たもの

③『中原淳一の幸せな食卓』（集英社 2003）

雑誌に掲載されたレシピを集めた本。ライフスタイルの提案など積極的におこなった。

≪人形作家として≫

④『中原淳一の人形 人形への熱き想いと作り方のすべて』（平凡社 2001）

（別冊太陽） 「フランス人形」のネーミングは彼が1932年につけた。

≪挿絵画家として≫

⑤『花物語』上巻・中巻・下巻 吉屋 信子 [著] 中原 淳一 [挿画]（国書刊行会 1985）

⑥『乙女の港』川端 康成 [著] 中原 淳一 [挿画]（国書刊行会 1985）

川端康成の著作など多くの挿絵を描いた。

⑦『七つの蕾』松田 瓊子 [著]（国書刊行会 1985）

⑧『紫苑の園』松田 瓊子 [著]（国書刊行会 1985）

⑨『香澄』松田 瓊子 [著]（国書刊行会 1988）

⑩『サフランの歌』松田 瓊子 [著]（国書刊行会 1988）

⑪『JUNICHI 新絵物語集』（国書刊行会 2007）

外国の物語への挿絵には、異国の雰囲気表現する影絵の技法を施した。

⑫『名作絵物語』（ひまわり社 1955）

⑬『七人のお姫さま』（国書刊行会 2007）

⑭『夢の中の天使 中原淳一画集』（サンリオ 1999）

⑮『二人のしあわせ 中原淳一エッセイ画集 3』（平凡社 2006）

≪作詞家として≫

- ⑯雑誌『ハイカー』37号（山と溪谷社 1958.11.1 発行）
パリから帰国した中原淳一がレコード会社の依頼で初めて訳したものが「枯葉」で、その後100曲以上のシャンソンの訳詞を手掛けた。

≪演出家として≫

- ⑰『中原淳一 美と抒情』高橋洋一[著]（講談社 2012）
1950年、わが国初の本格ミュージカル「ファニー」の脚色、演出、装置、衣裳などを担当した。

≪プロデューサーとして≫

- ⑱『中原淳一展 没後20年』（朝日新聞社 2003）
雑誌『ジュニアそれいゆ』誌面での「ミスター&ミス・ジュニアそれいゆ」募集の他、様々な芸能人等を発掘した。

展示ケース4

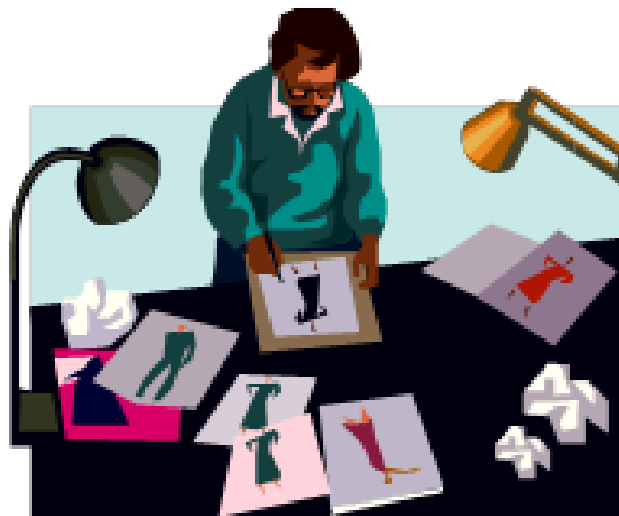
「中原淳一の交友録～影響を受けた人たち～」

- ①『花森安治戯文集 2』（ブックエンド 2011）
「暮らしの手帖」の編集者花森安治とはファッションについて熱く語りあった。
- ②『人通りの少ない道』芦田 淳 | 著（日本経済新聞出版社 2011）
ファッションデザイナー芦田淳は、中原淳一に師事。
- ③『内藤ルネ自伝すべてを失くして』（小学館 2005）
- ④『好き勝手夏木陽介』（講談社 2010）
“夏木陽介”というすがすがしい芸名は、燦々と降り注ぐ太陽の下で、すすくと夏の若木が伸びていくようにとの願いを込めて中原が贈ったもの。
- ⑤『オペラ歌手奮闘物語』畑中良輔[著]（音楽の友社 2009）
オペラ歌手畑中をメイキャップしたが乙女に変身…
- ⑥雑誌『週刊新潮』28巻18号（新潮社 1983.5.5 発行）
p.139 墓碑銘「高英男に看取られた“美少女画” 中原淳一さん」
晩年親しかったシャンソン歌手高英男の千葉の家での療養生活を、地元の人に人形の創り方を丁寧に教えながら静かに送っていた。

- ⑦雑誌『波』18巻8号（新潮社 1984.8.1 発行） p.25～27 「中原淳一さんの思い出」 画家長沢節は、中原淳一の推薦でデビューした。
- ⑧雑誌『別冊太陽 美しく生きる 中原淳一 その美学と仕事』（平凡社 1999.4.25 発行） 芦田淳と浅丘ルリ子 対談「美しいものを見出す力」
- ⑨雑誌『婦人公論』86巻17号（中央公論新社 2001.9.7 発行）
p.125～137「中原淳一の世界「ひまわり」の季節ふたたび」
p.128～129 座談会「淳一の学校は夢の学校」朝丘雪路、内藤ルネ、中村メイコ
- ⑩雑誌『週刊文春』25巻18号（文芸春秋 1983.5.5 発行）
p.22「子女の「紅涙」を絞った昭和の竹久夢二は大へんな“電話魔”だった！！」
- ⑪雑誌『歴史春秋』67号（歴史春秋社）2008.4.27 発行
p.128～137「抒情画家中原淳一の足跡と会津人たちとの出会い」
- ⑫雑誌『装苑』7巻1号（文化服装学院 1952.1.1 発行）
p.64～65「座談会 パリ・モードを批判する」
- ⑬『朝日新聞夕刊』2013年2月5日
p.7 「美しきものいつの世も」「美輪明宏さんに聞く」

【家族の中原淳一への思い出】

- ⑭『夫中原淳一』葦原邦子〔著〕平凡社 2000
- ⑮『カトリア 乙女たちの記憶』美研インターナショナル 2011
p.10 淳一のおもかげ
「銀ブラ」という言葉を作ったのは、中原淳一?!
- ⑯『すみれ咲く愛みちて』葦原邦子〔著〕（婦人画報社 1988）



エントランスコーナー展示関連資料

一般閲覧室展示（貸出可能）

- ①『完本 乙女の港』（1）（2）川端康成[著]（実業之日本社 2009）
- ②『大正ロマン・昭和モダン』（茨城県天心記念五浦美術館 2009）
- ③『中原淳一展』（朝日新聞社 2003）
- ④『中原淳一』（河出書房新社 2011）
- ⑤『ジュニアのスタイルブック』（国書刊行会 2000）
- ⑥『それいゆ表紙集』中原淳一[著]（国書刊行会 1985）
- ⑦『スーツとセパレーツ』中原淳一[著]（ひまわり社 1953）
- ⑧『ママの見る一年中の子供のきもの絵本』中原淳一[著]（ソレイユ社 1962）
- ⑨『パターン・ブック』（ひまわり社 1951）
- ⑩『ブラウス集』中原淳一[著]（ひまわり社 1953）
- ⑪『「少女の友」とその時代』遠藤寛子[著]（本の泉社 2004）
- ⑫『父中原淳一』中原洲一[編]（中央公論社 1987）
- ⑬『時代を創った編集者101』（新書館 2003）
- ⑭『夢見る女性誌』（群馬県立土屋文明記念文学館 2010）
- ⑮『内藤ルネ』内藤ルネ[著]（河出書房新社 2002）

ほか

エントランスホール展示「中原淳一生誕100年」目録

編集:北海道立図書館 利用サービス課

発行:北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL:011-386-8521 FAX:011-386-6906

発行年:平成 25 年 9 月
